

さいたま市総合振興計画審議会第1部会（第5回）における委員意見について

資料2

項番	項目	頁数	委員の意見	事務局対応（案）
1	全体	-	全体として用語を整理する必要があるのではないか。	御指摘を踏まえて、用語の整理を行います。
2	全体	-	台風19号による被害を受け、その影響など記載の追加が必要ではないか	台風19号による被害は既に記載されており、先日の第3回総会での意見も踏まえ、分野別計画等の記載を追加したところです。
3	全体	-	クリエイティブ産業を育てていくという方向性も必要ではないか	御指摘の点については、分野別計画に記載されている「AI・IoT・ロボット関連など、成長の著しい産業分野におけるイノベーションを創出する」などに含まれております。
4	第1部 さいたま市の課題	33	財政状況の課題が記載されるべきではないか。	御指摘を踏まえて、さいたま市の課題の1段落目に以下のとおり追記します。 社会保障関連経費等の増大や公共施設の老朽化の進行などにより、本市の財政運営は今後厳しくなっていくことが予測されます。そのため、限りある経営資源を選択と集中の視点で、効果的・効率的な都市経営を推進していくことが重要となります。 また、少子高齢化の進行や、経済のグローバル化と技術革新の進展、安全・安心に対する意識の変化、地球環境問題の深刻化、社会の多様性と市民活動の高まりなど、本市を取り巻く状況が大きく変化中、将来も持続可能な都市として、成長・発展するためには、その変化に迅速に対応し、まちづくりの土台をしっかりと築いていく必要があります。
5	第1部 さいたま市の課題	35	地域経済循環率の低さも課題として記載すべきではないか。	地域経済の自立度を測る地域経済循環率の向上については、さいたま市の課題に記載されている「地域の雇用や経済を支える中小企業者の経営基盤強化に向けた支援を推進する必要」などに含まれています。
6	第1部 将来都市構造	40	UDCMiが記載されるなら、UDCOも記載した方がよいのではないか。	御指摘を踏まえ、記載内容を追加します。 様々な主体と連携してまちづくりを推進することを目的として設置された、「アーバンデザインセンター大宮（UDCO）」では、「産+官+学+民」の連携によるまちづくりが進められています。

項番	項目	頁数	委員の意見	事務局対応（案）
7	第1部 将来都市構造	46～48	エリアマネジメントについて、将来都市構造に記載するのであれば、都心・副都心との関連など、関係する部分に絞った方がよいのではないか。	御指摘を踏まえ、主に都心・副都心との関係を示すこととし、その他エリアマネジメントを説明する文言を参考として記載することとします。
8	第1部 将来都市構造	47	(2)背景の2段落目は、エリアマネジメントというより、市民協働に関する背景となっている。ボランティアだけでなく、みんなが資源を出し合うこと、専門家を入れた推進が必要などといった内容を記載したほうがよい。	御指摘を踏まえ、記載内容を追加します。
9	第1部 将来都市構造	48	エリアマネジメントでは、マネジメントと併せてプロデュース・プロモーションという観点も重要であり、追記したほうがよい。	御指摘を踏まえ、記載内容を追加します。
10	第1部 計画の進行管理	55	PDC Aサイクルによる進行管理では、確実に成果が出るもののみになってしまう。OODAにより臨機応変に対応できるような進行管理も検討すべき	OODAの視点は計画書に記載されていませんが、実施計画の進行管理などに当たっては、年度内での取組の見直しなど、臨機応変に対応する予定です。
11	第1部 計画の進行管理	55	総合振興計画の進行管理について記載されているが、各部局の個別計画の進行管理とはどういった関係になるのか。	個別計画と総合振興計画を体系的に整理するとともに、これらを一体的に進行管理していく仕組みを構築することを検討していきます。
12	第2部 重点戦略	56～65	次期総合振興計画の中に、まち・ひと・しごと総合戦略を包含することだったが、計画書にはどういった記載がされるのか。	次期総合戦略については、今年度の12月頃に国が策定し、年度末頃に県が策定を予定しています。今後、国・県の次期総合戦略を勘案しながら、次期総合計画の重点戦略と関係性も含めて検討していきます。
13	第2部 重点戦略	63	「未来技術」を、Society5.0の実現に向けた技術として定義するのであれば、Society5.0の説明を時代潮流だけでなく重点ポイントなどでも触れるべきではないか。	御指摘を踏まえ、用語の定義を記載します。 ◆地域経済を支える人材展開の強化 ・多様な人材の育成と活用 ・多様なニーズに応じた就労支援 ・生き生きと働ける魅力ある就労環境の整備 ※「未来技術」…AIなど、Society5.0の実現に向けた技術